



明日をひらく都市  
OPEN × PIONEER  
YOKOHAMA

# インクルーシブな学校運営モデル事業 令和7年度 中間報告会

横浜市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育課

【本事業を通して達成を目指す目標】

特別支援学校と小・中学校が相互に情報を共有しながら、交流及び共同学習を発展させた、柔軟で新しい授業の在り方や従来の枠組みに捉われない体制等について、十分な研究と検討を積み重ね、児童生徒の変容を検証していくことにより、すべての児童生徒が安心して学ぶ環境をつくり、可能な限り、地域の学校で共に学ぶ仕組みの基盤づくりを構築することを目指す。

【地域の特色】

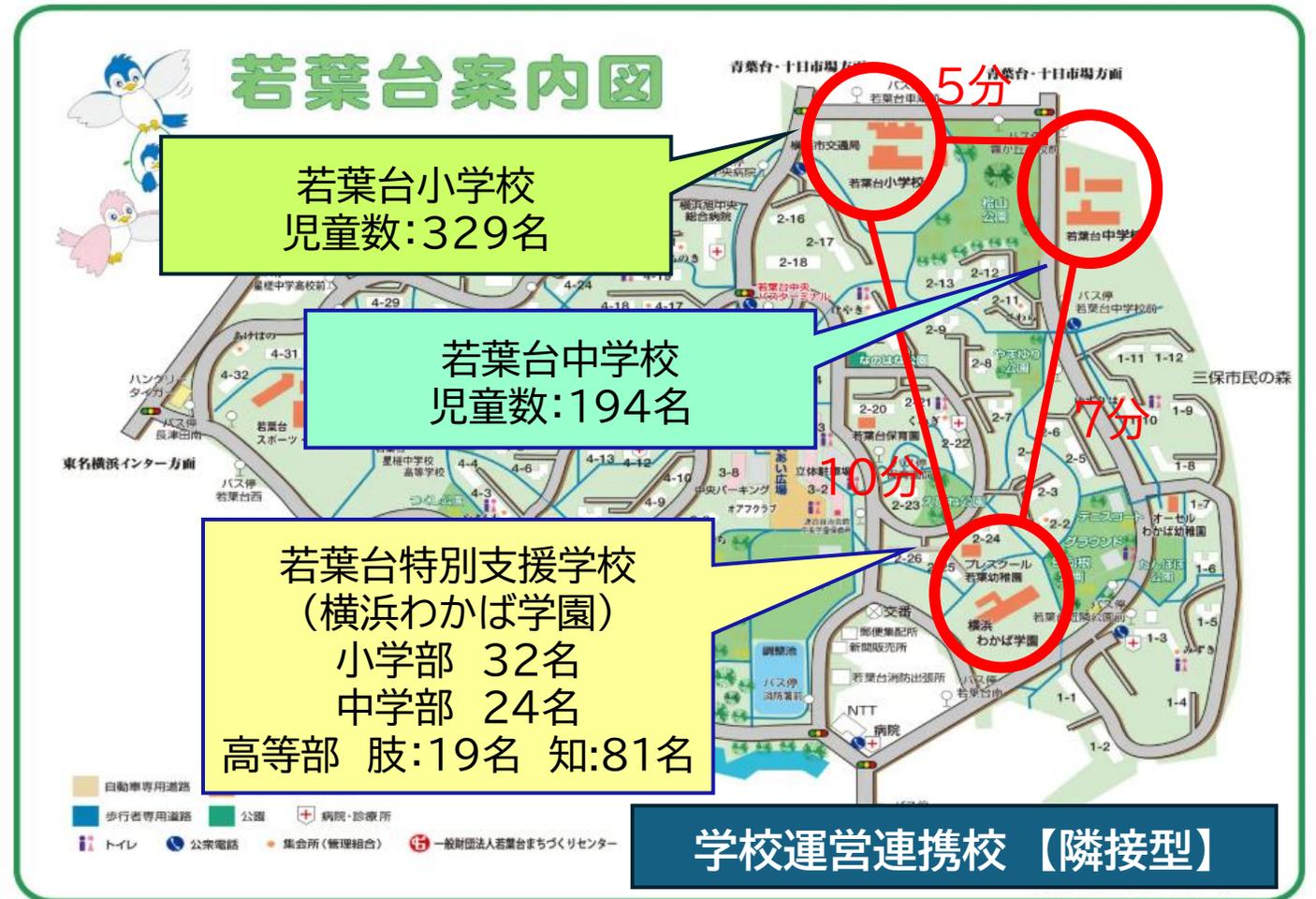
- 若葉台団地内にある3つの学校(1小・1中)
- 学校への協力体制が強い地域
- 高齢者、障害者、外国人、子育て世代、だれもが暮らしやすい街づくりを掲げている

【これまでの交流及び共同学習等】

- 特定の学年(毎年、小学校2年生と小学部1～3年生)
- 特別活動(ポッチャやゲームの交流)が中心
- 場所は特別支援学校で実施
- 特支から人権週間に人権の授業講師として小学校へ
- 教員間の交流、研修会等は未実施
- 居住地校(副学籍校)交流

【横浜市における交流及び共同学習:併設型】

- 小学校に併設する中村、北綱島、東俣野特別支援学校における共同学習の歴史



## 【連携協議会の充実】

構成人数 11名	開催回数 6回	【外部専門家】 横浜国立大学 D&Iセンター
※連携協議会には、構成人数のほか、両校の担任やD&Iセンターの講師等、複数名が検討内容に応じて参加している。		
<b>【連携協議会において検討・議論した主な内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システムの環境で学んでいる児童の姿と、将来的に目指す姿についての具体化、共通認識化。</li> <li>・教科等の共同学習の実施内容及び実施後の振り返り、取組の効果検証。</li> <li>・外部専門家による検証方法の検討や検証結果の共有。</li> <li>・インクルーシブ教育システムを支える環境整備について検討。</li> </ul> <p>★R7年度新規:連携協議会とは別に実務担当者会(小学校、特別支援学校1・2年担当者、両校カリキュラム・マネージャー)を実施</p>		

## 【カリキュラム・マネージャー】

所属	経歴	令和7年度の主な業務担当内容(実績)
小学校 ★R6年度・R7年度	小学校勤務13年・中学校勤務5年 特別支援学校勤務9年  定数内配置 (特配:29時間非常勤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流及び共同学習における新しい授業の在り方や従来の枠組みに捉われない体制作り</li> <li>・インクルーシブ授業実践の年間計画(1・2・3年生)作成、共同学習における単元設定、授業プランの作成、指導計画の作成及び学校間の調整</li> <li>・合同授業における教科担任(メイン・ティーチャー)</li> </ul>
特別支援学校 ★R7年度	小学校管理職経験 特別支援学校管理職経験 特別支援教育相談課指導主事経験  定数内配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ授業実践の年間計画(1・2・3年生)作成</li> <li>・3校校長と協働で本事業の推進を牽引</li> <li>・教育委員会事務局との調整</li> <li>・授業実施や教員連携における企画、学校間調整、地域連携、情報共有の推進、オンライン授業配信</li> <li>・3校教職員に研修会の企画運営</li> </ul>

# 新しい学びのカタチへの挑戦 ～現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築～

## 【柔軟な指導体制 ★兼務辞令発令者】

小学校		特別支援学校				
★カリキュラム・マネージャー	小学校担任・小学校専科担当	★小学部1年担任(新規)	★小学部2年担任(継続)	★小学部2年担任(新規)	小学部1・2年担任	カリキュラム・マネージャー
<ul style="list-style-type: none"> <li>週2回特支勤務(ST)</li> <li>共同学習MT</li> <li>図工専科(1・2年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任: 共同学習MT 共同学習ST</li> <li>音楽科専科(非常勤) 共同学習MT</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校6年生MT</li> <li>小学校1年生MT</li> <li>共同学習ST</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同学習ST</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同学習MT</li> <li>共同学習ST</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同学習におけるST</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン共同学習ST</li> <li>週1回程度、小学校個別(特別)支援級支援</li> </ul>
月に5～6回程度小学校1・2年生の学習支援(11月より)						

## 令和7年度実践の指導体制を振り返って

カリキュラム・マネージャー	兼務辞令教員	小学校担任・特支校担任
<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校は、小学校1・2年生の図工専科を担当。また、特支で週2回勤務することにより、児童の実態把握の精度があがり、学級担任との情報交換もスムーズになった。</li> <li>特支校に1名設置したことにより、授業プランや年間計画作成において両校の意見調整が円滑に行われるようになった。</li> <li>特支校のカリキュラム・マネージャーの専門性を生かし、校長への適切なアドバイスを行い、中学校への行事参加等、新たな実践への可能性を広げることにつながった。また、3校合同研修の充実につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校1年生「みんなで一緒に学ぶのは楽しい」(学校紹介)では単独でMTを行い、お互いの児童を知り、インクルーシブ実践を始める気持ち作りに効果があった。</li> <li>共同学習の実施場所により主たる授業者を変えた。特支の児童にとっては、共同学習においても安心して学べる環境となった。</li> <li>「わかば学園探検」(小2)「ロボット」(小2)は特支校で授業を実施する際の主たる授業者を務めた。授業のUD化や配慮が必要な児童への対応等、人的環境のUDの視点を踏まえた言葉がけを行い「安心して学べる場」の提供や児童同士の学び合いのサポートとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同学習においてグループに分かれるときには、それぞれに小学校、特支校教員をサブ・ティーチャーとして配置し、児童へのきめ細やかな支援を行うことができた。</li> <li>時間調整をするのは難しかったが、共同学習前に授業の進め方の打ち合わせ時間をもったり、連携会議とは別に担当者同士が話をするすることで、児童の姿が具体化され、指導や支援につなげることができた。</li> </ul>



1年生				2年生			
回	月	教科		回	月	教科	
①	5	生活科	「わかば学園のことを知る」 (オンライン自己紹介、特支の紹介クイズ) 小1・2組合同実施	①	5	生活科	「わかば学園たんけん!」 *小1組、2組 2回に分けて実施
②	6	生活科	「がっこうをたんけんしよう」	②	6	体育科	「横浜FCとあそぼう」 *小学校個別支援級児童参加
③	7	図工科	「やぶいたかたちからうまれたよ」	③	6	生活科	「まちたんけんにいこう」 小1・2組合同実施
④	9	国語科	「6年生の読み聞かせを聞こう」 小1・2組合同実施	④	7	体育科	「ボッチャをたのしもう」 小1・2組合同実施
⑤	11	図工科	「ならべてならべて」 小1・2組合同実施	⑤	9	音楽科	「いい音みつけて:打楽器合奏」 *小1組と特支児童6名を3グループ編成
⑥	11	音楽科	「フルーツケーキ(打楽器合奏)」	⑥	10	生活科	「おもちゃランド」
⑦	12	道徳科	「みんなちがってみんない(人権学習)」 小1・2組合同実施	⑦	12	国語科	「ロボット(NAO、OriHime、外部講師)」 *小1組、2組 2回に分けて実施
⑧	1	国語科	「もののなまえ(おみせやさんごっこをしよう)」 小1・2組合同実施	⑧	1	体育科	「マットランド」
⑨	2	特別活動	お楽しみ会 小1組、2組 2回に分けて実施	⑨	2	生活科	箱で遊ぼうよ

※この他にも、15分程度のオンライン交流を実施(学年ごとに月1回程度)

①②④⑦は特別支援学校で実施(新たな取り組み)他は小学校で実施



[さんぽみちを通過って、たんけんだ！！—若葉台特別支援学校と若葉台小学校の新しい学びのカタチ | 横浜市教育委員会公式note](#)

[子どもたちがつむぐ、やさしい学びの時間 | 横浜市立若葉台特別支援学校](#)

単元	学びの場の広がりとその効果
「まちたんけんに行こう」 (2年 生活科)	小学校と特別支援学校、それぞれが生活科の学習「まちたんけん」で若葉台ショッピングセンターへ。「あれ、わかば学園の子たち来ているよ。」と特別支援学校の児童を見つけて駆け寄ってきました。短い時間でしたが、最後は、パラバルーンを一緒にやって再会の時を楽しんでいました。地域の広場という開放的な場所だからこそ、自然な触れ合いが感じられました。また、そこにいた地域の方も一緒に参加するなど、「若葉台地域だから」できた場面でした。
「わかば学園たんけん」 (2年 生活科)	2年目で初めての特別支援学校での授業。1年生の時は、初めての小学校での学習では泣き出したり、不安定になっていた特別支援学校児童もホームでは余裕の笑顔。一枚のエアレックスマットにグループで座っている姿は、あまりにも自然でした。小学校でグループ活動をするときに、座卓を使って、床に座って行うことで、児童同士の距離が近くなっています。座っているとお互い一年生同士、目の高さも一緒。そこから共感性も育ってきました。



横浜市教育委員会事務局 (R7, 4)

横浜市が注目する社会情動的コンピテンシーの項目		インクルーシブ授業での声かけの例
メタ認知	自分の学習状況を把握し、それを踏まえて行動を調整する力	「どんなところをがんばりましたか。」 「もっとこうやればよかったと思ったことはありませんでしたか。」
知的好奇心	物事に興味・関心をもち、自分から進んで取り組む力	「もっと知りたいなと思ったことはありませんでしたか。」 「不思議に感じたことはありませんでしたか。」
知的謙虚さ	自分の意見に謙虚な姿勢をもち、意見を柔軟に変更する力	「クラスの友達で頑張っていた人たちはいましたか。」 「新しく知ったことが出てきたら、どうしましたか。」
共感性	困っている人に共感したり、助けてあげたりする思いやり	「楽しそうにしていた人はいましたか。」 「自分から声をかけたり、手をふったりしましたか。」 「相手のことを考えてみましたか。」

横浜市では、これまでの研究に基づき、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて「社会情動的コンピテンシー」に着目した学習が展開できるように、令和7年4月全校教職員にこのリーフレットが配された。ここに示されている4つの視点を、インクルーシブモデル授業作りの際に位置付けている。これらの項目は、1回の授業で評価できるものではなく、授業ごとに教員が、授業中の声掛けや支援、振り返りにつなげている。インクルーシブ共同学習で、将来のウェルビーイングにつながる力の育成をめざしている。

### 教科のねらい

小学校

・紙を破いた形や色から、形の面白さに気付き、特支の友達に声をかけたり、一緒にやぶったりして自分の表現につなげようとする。

特別支援  
学校

・材料などから、表したいことを思い付くこと。  
・紙をやぶいたときの手ごたえ(音や感触)を体験し、形や色について気付き、表したいことを思い付く。

全体  
(共通)

・いろいろなやぶき方をためしながら、他者に声をかけたり、一緒にやぶいたりしながら、イメージをひろげていく。

令和6年度の小学校1年生と特別支援学校小学部1年生との様々な教科等による交流及び共同学習の取組から、共に学ぶことによる「非認知能力(社会情動的コンピテンシー)」に着目。

・令和7年度には、授業の特性に応じて教員が「非認知能力(社会情動的コンピテンシー)」を意識できるように、学習指導案で共通の項目を設定。

・年度の初めと年度の終わりに、横浜国立大学の協力のもと、児童の「非認知能力(社会情動的コンピテンシー)」に関するアンケートを実施し、分析。



### インクルーシブの視点「知的好奇心」

小学校

「自分の好きなものを作りましたか。」  
「紙はどうやったら形が変わるか気が付いたことはありますか。」

特別支援  
学校

「自分で触ってみましたか。」  
「自分で破こうとしていましたか。」  
「破けたときに何かに気付きましたか。」  
「破けた感覚を感じましたか。」  
「できる!」と感じていましたか。  
「感覚的な刺激(破く、触る等)に興味をもっていましたか。」

### インクルーシブの視点「共感性」

小学校

「わかば学園のお友達やクラスのお友達がやぶいた紙をみたり、見せたりしましたか。」  
「わかば学園のお友達が紙を破くときにお手伝いしましたか。」

特別支援  
学校

「若葉台小学校のお友達の紙に手を伸ばしていましたか。」  
「あいさつしたり、声をだしたりしていましたか。」

## 変容

### 児童の姿

- ・ 肢体不自由のある子どもたちとの関わりを重ねるなかで、物理的・心理的な距離感が縮まり、自然に近くで関わろうとする姿が見られるようになった。
- ・ 相手の動きや表情、しぐさに注目し、言葉にならない気持ちを感じとろうとする姿勢が育ってきている。
- ・ はじめは教師の声かけをきっかけに関わっていたが、現在は児童同士が自ら相手の様子に気づき、声をかけたり行動を調整したりする姿が増えている。
- ・ 「雨の中、帰るの大変だね。」「ちょっと、聞いて。一緒にやろうよ。」等、特支の児童から小学校の児童へ声掛けをする姿が見られることもあり、両校の児童にそれぞれの共感性が育ってきている。
- ・ 特支校の児童は場に慣れてきた。以前は、緊張があるのか、寝たり、泣いたり、怒ったりする場面が見られた。今では、授業に落ち着いて入れるようになってきた。授業開始の挨拶を特支校の方法にしてみたり、その教科ごとの合図としてサインミュージックをはじめに流したりしている授業の工夫が良かったと思う。
- ・ 特支校の児童が取り組める場面が増えてきた。事前にその単元の学習を特支校で行い、教材に触れることで、児童がやってみようという気持ちで学習に臨んでいるようだった。

### 教員の姿

- ・ 教師自身が答や正解を示すのではなく、「どうしたら一緒にできそうか」と問いを投げかけ、子どもと共に考える姿勢へと変化している。
- ・ 小学校教員と特別支援学校教員が、それぞれの専門性を生かしながら、役割を固定せず、共に授業を作る協働的な関係へと深まっている。
- ・ 今年度は特支校で特支教員による授業や一つの授業を音楽専科、小学校担任、特支校担任が行って見た。このことにより、特支校教員は、特支校の児童の支援という立場だけでなく、学習支援の立場としても授業の役割を担うようになった。
- ・ 児童同士をつなぐという役割について、どのような関わりが児童にとってよいのかを考えるようになった。



## 最終年度に向けた展望と期待

### 【本事業における展望】

- ・ 小学校1・2年生と小学部1・2年生との交流及び共同学習に加え、小学校3年生と小学部3年生による交流及び共同学習の実施。
- ・ 教科・領域等の広がりへの検討。
- ・ 中学校と特別支援学校中学部との交流及び共同学習の在り方の検討。
- ・ 誰もが安心して共に学ぶことのできる空間の創出。

### 【本事業後の展望】

- ・ 「横浜市特別支援教育推進指針」に基づいた、9年間を通じた交流及び共同学習の展開。
- ・ 本事業においては欠かせない各学校をつなぐカリキュラム・マネージャーの在り方の検討。